

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2874003326		
法人名	医療法人 恵風会		
事業所名	ケアホーム みどり		
所在地	兵庫県姫路市今宿5丁目3番8号 (電話) 079-293-6655		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年10月22日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

高岡病院、恵風クリニックを母体とする2ユニットのグループホームである。開設5年目を迎え、ケアの基盤は整いつつあり、職員の定着状況も良好である。管理者、職員共に質の高いケアの取り組みを目標としている。外部研修をはじめ法人での研修、事例検討会には積極的に参加している。ホーム内でも計画に基づいて担当を決め勉強会を毎月行い、更なる向上を目指している。入居者、職員共に良い関係を保ちながらお互いを尊重し合って、共に過ごしている。入居者の表情は明るく活気もあり、それぞれの出来る事をプラス面として捉え役割を持って日々暮している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	<p>昨年の評価で玄関の施錠について検討した事を受け、職員、入居者、家族等で話し合いを重ね検討している。改善点を真剣に受け止め、解決に向けた取り組みの姿勢がうかがえる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今回の自己評価は職員、管理者共に取り組み、自分達の行っているケアの振り返りの機会と捉えている。ケアの方針や実践の基盤作りはできてきたため次のステップとして職員一人ひとりのレベルを上げることでよりよいケアにつながると考えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>2ヶ月に一度の定期開催を行い、報告にとどまらず意見交換や知識の伝達が行われている。地域の方にも参加していただくようにしている。介護保険の改正時には市の介護保険課の職員にも参加していただいて説明を受けている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>家族が気軽に参加でき、話しやすい場となるような茶話会を年に3回開き交流を図っている。また、個別にはケアプラン会議に出席を依頼し、日々のケアに関しても直接意見をいただき、プランに反映でき、日々のケアにつながるような配慮がなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>日常的な散歩や外出、月に一度の清掃活動への参加の継続によりご近所の方との交流ができ、気やすく会話ができるようになっている。地域のボランティアグループの協力により幅広く地域住民と交流ができてい</p>

【情報提供票より】(平成21年 8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤13人, 非常勤 0人,	常勤換算13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7	要介護2	4		
要介護3	7	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84.3 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいふう心療クリニック、高岡病院、高岡病院歯科
---------	-------------------------

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の方々に安らぎのある生活を、それが私たちの願いです。」を理念として掲げ、安心して暮らすためには施設だけでは難しいため地域の方々に協力していただきながら職員が一人ひとりの入居者の状況を把握し、居心地のよい環境作りを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示し、毎朝唱和し、本人本位の自立支援を心がけ、その人に合った対応ができるように職員間で話し合っている。また、月間目標を一つ決め、会議で評価し、日々の実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に一度入居者と職員が清掃活動に参加することも定着し、地元住民とは気やすく交流できる関係になっている。地域のボランティアグループ「さわやか会」の協力の下、地域行事に参加したり、子供達との交流も多く持つことができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受けて、施設について職員会議で改善点を話し合い、ホームの方針を決めている。今回の自己評価はまず職員が記入し、管理者がまとめられている。自己評価を自分達のケアについて振り返る機会と捉え取り組んでいる。自己評価や第三者評価を重ね基盤作りはできたため、次は職員一人ひとりのレベルアップを図ることがよりよいケアにつながることを考えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>老人会会長、入居者、家族、職員をメンバーに2ヶ月に一度開催されている。会議の内容は取組状況の報告や意見交換を行い、多分野の勉強を取り上げ、講義と話し合いを行っている。</p>		<p>内容は報告にとどまらず意見交換や知識の伝達も行われている。今後も内容の充実を図ると共に幅広い方面から参加メンバーを求め継続的な話し合いができるよう取り組んでほしい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム連絡会においては介護保険課の職員と情報交換を行い、介護保険上疑問点や分からない時は担当職員に聞き解決するようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホームでの様子や状況を写真や手紙を添えて送付している。また、健康状態や、金銭管理・行事案内を一緒に伝えている。面会時には詳しく伝えたり、緊急時には電話で伝え、家族の意向の確認等も行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアにあたる時、家族との信頼関係作りを大切に考えている。家族の参加できる茶話会を開いて、気軽に意見の言える場を作り、個別にはケアプラン会議に出席していただいてケアに関する意見を得ている。常に家族の不安や知りたい情報を事前に考えて対応するよう心がけている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来職員の退職はなく、法人内での異動が年に1~2人ある程度で入居者への影響が少なくなるよう人事に配慮している。また、交代の時も入居者がスムーズに受け入れができるよう現任職員がカバーしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内及び法人内で勉強会を開催し、学べる機会を多く持っている。また、院内学会で事例発表を行い、伝達研修も充実させている。外部研修にも順番に参加できるようにし、リーダー育成に向け一人ひとりの目標を立て達成に向け取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	17事業所による連絡会の会長を務め、事業所間の交流を図っている。会では情報交換や勉強会を行い、それぞれの質向上を目指している。勉強会は自分達の知りたい事をテーマに取り上げ、事例検討でグループワークも行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学した後で入居が決まった時、本人が安心して入居できるよう家族と連絡調整しながらかわりを多く持ち、電話連絡等行っている。センター方式を用いて家族から詳しい生活歴お聞きしてアセスメントを行い、入居後には自身の居場所と思えるよう役割を持っていただくよう支援している。また、家族と連携を図り安心して過ごせるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	状況把握に努め、入居者についての検討会を週に一度は実施し、職員の対応方法を統一できるようにしている。継続した取り組みで必要な方には日記をつけていただいて忘れることに対する不安解消に努めている。また、面会時に家族にもメッセージや言葉を記入していただいて、家族への思いも薄れないように工夫している。ノートをつけることにより悲観的な思いが減っているように感じている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自身で表現できる方に対しては表現できる機会が増えるよう話しやすい関係作りを心がけ、できない方に対しては表情を見て思いを汲み取り、悲しい表情をさせないように支援している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者を決めセンター方式を利用している。入居者についてのアセスメントを行い、まずは1ヶ月分の計画を立て、生活が落ち着くまで状況把握を行う。週に1回の検討会を行い、職員全員で意見交換を行い反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居後1ヵ月後に3ヶ月分の計画を立て直し、モニタリングと評価を実施し、半年の計画を立案している。計画見直し時には、担当者会議を開催し、本人・家族にも出席していただいて意向に沿ったケアの方針、方法を根拠を持って決めて実行するようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者、家族が安心できるよう主治医との連携に務め、他科受診時は家族の協力も得ながら適切な医療が受けれるよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの主治医と連携を図り安心して適切な医療が受けれるよう家族に協力を得ながら支援している。緊急時の対応は家族の意向を確認しながら実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見学时、入居時に医療連携加算について説明し、具体的な事例を話し理解を得ている。また、職員間では勉強会を行い、看取りの重要性や意義について理解し、意識の統一を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに対して尊敬して接するよう接遇面での月間目標を決め意識した対応を心がけている。個人情報の保護を図り記録物は詰所内の書庫に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の行事や日程表は作成せず、日々の流れの中でそれぞれに合わせた役割を持っていただき、できること・やりたいことをしていただけるよう支援している。職員が落ち着いていないと入居者も落ち着いた生活ができないと考え、業務に終わることなくゆったりと過ごせるような環境作りに努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者は一緒に、朝食と週に4回の昼食を調理するようにしている。入居者と献立を考え、買い物・準備・調理等を行っている。それぞれの得意な部分を一緒に行えるように配慮し、できる事をしてもらっている。また、畑で野菜作りを楽しみ、収穫したものを食材として使用したりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一度は入浴できるよう支援し、時間帯も本人の希望に添えるように配慮して、希望があれば夜間も可能となるような勤務体制としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアを受けるだけでは気を使われることもあり、できること・得意なことを役割としてその日の状態に合わせて取り組んでいただいている。毎日ラジオ体操や散歩は行い、週に1~2回のレクリエーション活動を実施し、外気浴を行ったり気分転換を図れるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々散歩、買い物は常時行くようにし、近くの病院に入院されている方のお見舞いに行ったり、ポストに投函したり用事があれば出かけるようにしている。年に3回バス旅行に行ったり、外食も楽しめるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年の第三者評価の受審結果を踏まえて、施錠について意見を聞いたり、職員間で話し合ったり、家族の意見を聞いて検討した結果、施錠することに決まった。ただ時間帯や状況に応じて開放するようにしている。		施錠についてはホーム内で入居者、家族の意見も聞きながら慎重に検討している。多角的に考えてどちらが良いと決めてしまわず、鍵がかかっているところで管理され、生活する時の入居者の心情を常に念頭に置き、鍵をかけることによる弊害について、今後も話し合いを続けて、職員が意識してケアにあたっていたきたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>法人と協力し月に一度は昼間、夜間を想定した避難訓練を入居者と共に実施している。マニュアルや緊急連絡網も整備され夜間は法人の男性職員の当直が分かるようにしている。</p>	○	<p>法人内では整備され安全性も確保されている為、今後地域との連携が出来るよう働きかけ、非常災害時における地域住民の受け入れも視野に入れ検討してもらいたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の食事には栄養バランスを考え摂取量のチェックを行ない状況把握に努めている。水分摂取についても1日の摂取量を1,500mlを目安にし、排泄状況の把握も行なっている。発熱時は特に注意し水分補給に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のスペースを広く取り、中央と端にソファを設置し体操したり、気の合う人同士で団欒できるような場所の確保も工夫している。観葉植物を置き、明るく落ち着いた感じである。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室にはなじみのある物を置かれ、安心して暮せるよう工夫されている。仏壇を置かれ、月命日にはご飯を供えたり出来るような支援もされている。植物を置き世話をしたり、以前自分で作られた刺し子の装飾品を飾られている人もいる。</p>		

 は、重点項目。